

総合科学技術会議の今後の検討課題について

平成 26 年 2 月 14 日

青 木 玲 子
 内 山 田 竹 志
 大 西 隆
 久 間 和 生
 中 西 宏 明
 橋 本 和 仁
 原 山 優 子
 平 野 俊 夫

総合科学技術会議は、安倍総理の強力なリーダーシップの下、科学技術イノベーション政策の真の司令塔として再生すべく、昨年 3 月以来この 1 年間に 10 回の審議を重ね、内閣の政策課題の実現に向けて邁進してきた。今後とも、内閣の科学技術イノベーション政策を推進するエンジンとして機能すべく、引き続き精力的に審議を進めるべきである。

1. 安倍内閣における総合科学技術会議の方向性

総合科学技術会議が昨年 3 月に議論をスタートした際には、我が国の社会経済環境の厳しさや国民の間の閉塞感・先行き不透明感の深まりといった切迫した危機感を問題意識として共有し、内閣の最大かつ喫緊の政策課題である経済再生の推進に向けて、科学技術イノベーションの潜在力を集中することを目指してきた。さらに、昨年後半の審議においては、経済再生と財政健全化を両立させ好循環を生じさせることを最優先課題とするとともに、「世界で最もイノベーションに適した国」を創り上げ、我が国の持続的発展を可能とするための、科学技術イノベーション創出の基盤の確立を急務とした。

こうしたことから、総合科学技術会議では昨年 1 年間、①科学技術イノベーション総合戦略の策定、②総合科学技術会議の機能強化（予算と直結した年間 PDCA サイクルの構築、国家重点プログラム(SIP, ImPACT)の創設)、③持続的発展のためのイノベーション創出環境整備（研究開発法人改革）、等の様々な取組を進めてきた。

そして、現下の我が国の経済社会の状況に鑑みるに、科学技術イノベーションには以下の 3 つの役割を果たすことが期待されており、特に（2）の持続的発展のブレークスルーとしての役割が重要である。本年においては、そうした問題意識を共有した上で、科学技術イノベーション政策の議論を進めるべきである。

(1) 経済再生を確実にする原動力としての科学技術イノベーション

我が国経済は回復しつつあるが、力強い成長軌道に早期に復帰し、成長力の底上げと好循環の実現を図り、持続的な経済成長につなげていく上で、科学技術イノベーションは中核となる原動力。

- ・政策の PDCA サイクルで言えば、昨年は、経済再生に向けて科学技術イノベーション総合戦略を策定した‘計画(Plan)’の年だったが、今年は‘実行(Do)’の年。

総合戦略を政府一体となって着実かつ強力に実行すべき。また、施策の進捗状況や成果の達成状況をしっかりフォローアップ(Check)し、改善(Act)を図るべき。

- ・我が国が持つ高い技術開発力を事業化・産業化という成果にまでつなげ、経済成長の原動力へと転化させていくことが必要。

⇒戦略的イノベーション創造プログラム（^{エスアイビー}SIP）の推進

（２）将来の持続的発展のブレークスルーとしての科学技術イノベーション

○より長期的な観点から鑑みるに、今後本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、厳しい資源・エネルギー制約や国際経済環境が予想される中で、将来においても、国際競争力を確保し持続的発展を実現させるためには、イノベーションを機軸とする以外に選択肢はなし。

○我が国を「世界で最もイノベーションに適した国」であり、世界で最も活発なイノベーション発信拠点へと変貌させていく必要。そのためには、大学や産業界といった個別の枠組を超えて、オールジャパンの視点から見て全体最適を実現するイノベーションシステムの理想像を考え、その構築に向け総合的改革に取り組む必要。

- ・科学技術イノベーションは、我が国の明るい未来に向けた‘頼みの綱’であり‘生命線’。そのための国家戦略としての負担は、どうしても必要な「先行」投資かつ「先攻」投資として覚悟すべき。
- ・科学技術イノベーションの促進による民間主導の経済成長の実現は、結果的に税収の拡大や歳出の抑制を実現し財政再建にも寄与。
- ・科学技術イノベーションが停滞すれば、国民生活の豊かさと安全・安心を下支えする基盤が浸食。
- ・直面する困難な課題の解決に向けた取組のみでなく、明るく活気溢れる未来を目指した‘攻め’の取組も重要（例：2020年東京リビック・パリリビック）。
- ・将来に向けてリスクを取って果敢に投資するような、新たなチャレンジを社会全体として支援する取組や意識改革が必要。

⇒革新的研究開発推進プログラム（^{インパクト}ImPACT）の推進

- ・イノベーションを誘発する土壌を醸成する基礎体力としての基礎研究が重要。

（３）グローバル経済社会でのプレゼンス向上の切り札としての科学技術イノベーション

我が国がグローバル化した世界の中で生きていく今日にあって、そのプレゼンスを高め地位を向上させる上で、科学技術イノベーションが有力な切り札に。

- ・世界の中で人口・規模や賦存資源等必ずしも優位にない我が国において、その人的能力や技術力の高さは、我が国の国力の源泉。
- ・世界及びアジアにおける我が国の位置付けとして、低付加価値製品の生産輸出拠点でも需要市場地でもなく、世界トップの技術力を可能とするイノベーション拠点として世界を惹き付け、所得や雇用を確保。
- ・世界最高水準の技術力を活用し、地球環境問題の解決等国际社会に貢献。

2. 本年前半に取り組むべき項目

総合科学技術会議の司令塔機能の下で、科学技術イノベーション政策を強力に推進し、経済再生や将来の持続的発展の実現を図るため、産業競争力会議や経済財政諮問会議と連携しつつ、総合科学技術会議において、以下の点について集中的に審議し、結果を取りまとめるべきである。

(1) 科学技術イノベーション総合戦略の推進・強化

①科学技術イノベーション総合戦略のフォローアップ

総合科学技術会議ではこれまで、予算と直結した年間のPDCAサイクルを確立し、効果的かつ効率的な政策運営を図ることが重要であるとの認識の下、科学技術イノベーション分野の‘骨太方針’である科学技術イノベーション総合戦略を基軸としたPDCAサイクルの構築に取り組んできた¹。本年は、この総合戦略を政府一体となって強力に推進するとともに、本年4月を目途にフォローアップを実施し、その進捗や成果を検証すべきである。

②科学技術イノベーション総合戦略の改定

我が国の科学技術イノベーションをめぐる直近の動向や上記フォローアップ結果を踏まえ、短期の工程表を含む科学技術イノベーション総合戦略について、本年5月を目途に改定し、「骨太方針」や「日本再興戦略」にも反映させるべきである。

③イノベーション創出環境の整備の推進

我が国を「世界で最もイノベーションに適した国」へと変貌させる上では、イノベーション創出のための環境整備が急務であり、‘人’‘資金’‘仕組み’の各面において、オールジャパンの視点から全体最適を実現する形で、研究開発環境を改善・充実させる必要がある。このため、イノベーション創出環境整備の対応策パッケージを、今春を目途に取りまとめ、本年の総合戦略の改定に盛り込むべきである。

(2) 国家重点プログラムの強力な推進

我が国の未来を切り拓く上での鍵となる「国家重点プログラム」として昨年創設し、合計で1千億円を超える所要額が予算案に計上された戦略的イノベーション創造プログラム（エスアイビーSIP）及び革新的研究開発推進プログラム（インパクトImPACT）の2大事業について、速やかに実行に移すべく、総合科学技術会議の下で、テーマの選定や推進体制の構築等所要の準備作業を早期に進めるべきである。

¹ ①「科学技術イノベーション総合戦略」（平成25年6月7日閣議決定）

②「平成26年度科学技術に関する予算等の資源配分の方針」（平成25年7月31日総合科学技術会議決定）

③「平成26年度科学技術重要施策アクションプラン対象施策の特定について」「平成26年度イノベーションに適した環境創出のための「重点施策」」（平成25年9月13日総合科学技術会議決定）

④「平成26年度科学技術関係予算の編成に向けて」（平成25年11月27日総合科学技術会議決定）

(3) 総合科学技術会議の司令塔機能強化

科学技術イノベーション政策を国家戦略として強力に推進するためには、総合科学技術会議を司令塔として関係府省・本部等が連携し、政府一体となって同じ目標を追求する政策推進体制を構築していくことが不可欠であり、その上で総合科学技術会議の司令塔機能のさらなる充実強化が必要である。このため、昨年は、予算面の見直し（予算と直結した年間PDCAサイクルの構築）、国家重点プログラム（SIP, ImPACT）の創設等に取り組んできた。本年は、事務局機能の強化を図るとともに、内閣府設置法改正等を通じ法制度面の見直しを着実に進めていくべきである。

(4) 新たな研究開発法人制度の整備

「世界で最もイノベーションに適した国」を実現する上で、研究開発法人が、多様な人材を世界中から惹き付け、活力に満ちた研究開発の拠点へと変貌し、いかにその能力を発揮できる体制を構築せねばならない。特に、世界トップレベルの成果が期待される特定国立研究開発法人は、国家戦略に基づいて研究開発課題に取り組む機関であり、イノベーションの担い手として、我が国の成長戦略上極めて重要である。

このため、今般の独立行政法人改革と併行して、新たな研究開発法人制度の創設のための法整備を速やかに実施すべきである。また、特定国立研究開発法人に対する総合科学技術会議の適切な関与のあり方について、検討を行うべきである。